

平成31年度

事業計画書

学校法人 常葉大学

目 次

1. はじめに	1
2. 重点事業計画	2
3. 管理・運営計画	3
4. 財務計画	5
5. 施設・設備整備計画	6
6. 教育活動計画	8

1. はじめに より高きを目指して～Learning for Life～

理事長 木 宮 健 二

大学や短期大学は、文部科学大臣が認証した評価機関から7年以内のサイクルで評価を受けることが法律で義務づけられております。平成30年度がその周期に当たった常葉大学では、大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審し、今年3月に大学基準に適合しているとの認定を受けました。総評では、大学統合後、学長のリーダーシップのもと、3ポリシー（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針）の策定や新たな教育課程の編成のために組織的に教育改革を進めたこと、少人数教育、グループ・ワーク、アクティブ・ラーニングの積極的な導入等、教育効果を高めるために様々な施策を凝らしていることに対し高い評価をいただきました。さらに、地域密着型の大学として地域貢献センターを組織し、地域の自治体や民間企業等と連携しながら活発な地域貢献活動を展開していることに対しても同様の評価をいただきました。その一方、内部質保証に関しては、組織間の関連性や役割分担等について課題が見受けられるとの指摘を受けました。こうした指摘を受けて、常葉大学では速やかに業務改善に着手し、内部質保証を担保するための組織改革と指針を平成30年度中に取りまとめ、来年度から新しい指針と組織のもとで内部質保証を推進することにいたしました。

常葉大学は、昨年4月に開設し、地域に開かれた都市型キャンパスとして静岡市民・県民から大きな期待と注目を集めている静岡草薙キャンパスばかりではありません。静岡瀬名キャンパスは、現在菊川市にある常葉美術館を平成31年度中に同キャンパス内に移転することにより、大学の造形学部、短期大学部の音楽科とともに芸術系キャンパスへと装いを一新します。また、静岡水落キャンパスは、隣接する附属常葉中学校・高等学校との中・高・大接続を強化するほか、浜松キャンパスは、近い将来のソフト・ハード両面の整備に向けて、その可能性を探るための準備作業に取り掛かるなど、新年度も各キャンパスで特色ある事業活動を展開してまいります。

附属3中学校・高等学校においては、厳しい募集状況を改善するために、学科、コースごとのきめ細かな学習・進学指導等を強化するとともに、附属高校の強みを生かした大学との連携を充実していくための連携・交流の具体的方策について、学校間で協議を積み上げてまいります。

昨年4月に幼児教育と保育とを一体的に行う「認定こども園」として新たにスタートした両附属幼稚園は、順調に所期の目的を達しつつあり、子ども・子育て支援に対する多様なニーズに応え、良質なサービスを提供することにより社会貢献にも努めてまいります。

各学校の中長期計画を検証している将来構想検討委員会では、各学校の中期計画の進捗状況を平成31年度内に整理し、ホームページに公開するとともに、本法人の長期ビジョンに基づき、地域の人々と手を携え、魅力あふれた持続的な社会づくりに貢献することに努めてまいります。

2. 重点事業計画

平成31年度の重点事業計画は、わが国の私立学校及び本法人を取り巻く現況を把握・分析したうえで、法人が設置する各学校がそれぞれの持つ個性や特色を最大限生かした教育研究活動を推進するための条件整備に重点を置いて策定いたしました。

加えて、法人の長期ビジョン及び各校の中期計画（実施期間：2016年度～2020年度）との整合性や長期計画（実施期間：2021年度～2025年度）につながる道程にも十分配慮いたしました。

平成31年度におきましては、各学校と地域社会とが連携し、共存共栄できる街づくりー地域創成への貢献ーを最重要課題と位置づけ、このほかの5つの重点事業計画とともに着実に推進してまいります。

- (1) 各学校と地域社会との連携、地域創生への貢献
- (2) 大学及び短期大学部と附属高校との連携・交流の充実
- (3) 定員確保に向けた附属中学・高校の実効性のある募集計画の推進
- (4) 附属高校における進学指導の充実と強化
- (5) 附属菊川高校校舎改築工事の推進
- (6) 両認定こども園の安定した運営

3. 管理・運営計画

(1) ガバナンスの充実

第一に、権限・責任体制を構築するためには、まず権限と責任の所在を明確にし、それが一致しているか否かについて確認します。その上で、権限・責任の適切な委任が必要か否かについて検討します。

第二に、意思決定の迅速化と透明性を確保するために、各所属における事務業務の点検を行い、その意思決定過程を再確認するとともに、時代に即したものになるよう、事務決裁規程の見直しを行います。

第三に、効率的な管理運営を推進するために、前年度は、草薙校舎開校に伴う組織改編と人事異動による適切な人事配置を行いました。今年度は、法人全体の各所属・部署の基本的な適正人員を決定できるよう努めます。併せて、事務職員の能力開発と中間管理職の人材育成を一層進めるため、現在の研修とOJTの実態を把握した上で、その体系化に努めます。

第四に、適正な業務執行を構築するために、引き続き、PDCAサイクルによる業務の実践を行うとともに、事務分掌表にチェック欄を設け、年度末に各自で点検・評価を行います。併せて、この点検・評価を受けて、事務分掌の適正な変更を行います。

(2) コンプライアンスの強化

第一に、掲示ないし配布した学校法人常葉大学行動規範及び各所属の倫理行動基準については、引き続き「コンプライアンス・マインドカード」として教職員各自が職員証とともに携帯し、周知を図っていきます。

第二に、学園諸規程のコンメンタールの整備については、第3編「管理・運営」の主な規程の整備を完了させるとともに、引き続き、管理規則の見直しを実施します。また、一応完了した第1編「基本」、第2編「職務・給与」、第4編「経理」は整備した内容の確認を行います。その他の編は、随時整備していく予定です。

第三に、マニュアルの作成については、大学・短大では部署単位で新たに1項目を作成するとともに、作成済のマニュアルの見直しを行います。中・高では各校教務課の内規を精査し、改訂が必要な内容について検討する予定です。幼・小では引き続き、個人情報の守秘義務について認

定こども園への移行に伴う状況を含めて作成し、小学校では危機管理マニュアルを作成します。

第四に、コンプライアンス・チェックシートによる自己評価については、チェック項目の見直しや修正を行った新たなチェックシートにより、第2回目の自己評価を実施する予定です。

第五に、コンプライアンス研修については、引き続き、新任事務職員の基本研修において顧問弁護士によるリスクマネジメントの講義を行うとともに、管理職研修会及び教職員研修会において学校事故・事件に精通している弁護士からコンプライアンスの重用性について講演していただく予定です。

(3) 自己点検・評価、第三者評価、学校評価の推進

学園内各校は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するために教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究活動の継続的な質の保証を図るとともに自主的な改革・改善に取り組んでまいります。

(4) 監査機能の強化

監査については、監事、監査法人（公認会計士）、監査部（内部監査担当部門）がそれぞれの立場や観点からチェックを行う三様監査を実施しています。これらの監査の充実を図るため、監査体制の現状を把握し、課題の検討を行うとともに、監査計画の見直しや監査結果の活用方策の検討を行います。さらに、監査の実効性を高めるために、三者の連携を図り、監査の質の向上と効率化に努めます。

4. 財務計画

私立学校をめぐっては大変厳しい経営環境にありますが、今後とも安定的かつ円滑に教育研究活動を進めるため、財務の健全化に向けて取り組んでまいります。

また、公共性の高い学校法人として社会への説明責任を果たすことも必要なことです。

このため、以下の諸施策を進めることといたします。

(1) 中長期計画の策定

草薙キャンパスの新設という大型設備投資にあたっては、それまで運用してきた有価証券や預金等の金融資産の取り崩しでその全額を賄いました。この結果、2017年度末は流動資産構成比率が5.3%（前年度比△15.7%）と一時的に減少することとなりました。

しかし、今後は、6年後の2024年度末に従前の規模である金融資産200億円まで回復するものと試算しています。

こうしたことを確実なものとするため、まずはそのロードマップである中長期計画の策定が求められます。所属の協力を得ながら、法人本部の関係部門が連携して中長期計画の策定を進めてまいります。

(2) 事業の効率的執行と経費の削減

教育研究経費・管理経費については、教職員間に経費の削減や効率的執行の意識が定着していると評価しています。

引き続き、実施した事業の効果を再点検するとともに、効果が期待できない事業の抜本的な見直しを実施するなど、事業の効率的執行と経費の節減に努めてまいります。

(3) 情報公開

2020年4月にスタートする高等教育無償化の対象となる大学の要件に、法令に則り、財務諸表等の情報や教育活動に関する情報を公開することが求められています。情報公開は、ますます重要な事項です。

財務書類閲覧事務取扱要領（平成17年度制定）に則った情報公開のほか、本法人のホームページ上で、広く一般に向けた分かりやすい財務情報や事業報告書を迅速に提供いたします。

5. 施設・設備整備計画

学校施設は、学生・生徒・児童・園児が学習と生活の場として一日の大半を過ごす重要な場所であるばかりか、災害時には近隣住民の緊急避難先にもなる重要な施設としての性格も併せ持ちます。したがって、通常時においても緊急時においても安心・安全な施設としての機能を維持することを最優先するとともに、急激な少子化やグローバル化の進展など、様々な社会環境の変化に的確に対応できる教育研究施設として一層の整備・充実に努めてまいります。

平成31年度は、菊川高校の校舎改築に伴い、常葉美術館の静岡瀬名キャンパスへの移転を8月までに確実に実施するとともに、学園施設整備（改築）中期計画に基づき耐震性の劣る附属菊川高等学校の改築整備に向けて、平成31年4月からの工事着手を目指してまいります。

○ 平成31年度主要事業

* 常葉大学静岡草薙キャンパス

- 西側駐輪場屋根設置工事
- 駐車場入り口ゲート設置工事
- 東側コンクリートブロック塀改修工事
- 出席管理システム新規導入事業
- 全学図書館システム入替事業
- 演習室用ノート PC 整備事業

* 常葉大学静岡瀬名キャンパス

- 美術館移転事業
- 敷地外周部における斜面及び擁壁変状に伴う地質調査・解析業務

* 常葉大学静岡水落キャンパス

- バイオデックスシステム4買替
- PC 自習室・学生・教室・職員 PC 整備

* 常葉大学浜松キャンパス

- 7号館（3・4階）空調機入替事業
- 保健医療学部呼気ガス分析装置入替事業

電話設備入替工事

通学バス購入

コンビニエンスストア整備事業

教員用 PC・プリンタ入替事業

常昇寮改修工事

*** 常葉大学附属菊川高等学校**

菊川高校校舎等改築工事

*** 常葉大学リハビリテーション病院**

隣地駐車場用地購入

*** 法人本部**

屋外分煙施設新設事業

スクールバス新車入替事業

6. 教育活動計画

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究にも取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指し、平成31年度は、以下に掲げる教育活動計画を中心に推進します。

○ 大学・大学院、短期大学部

〈常葉大学・大学院〉

1. 教育力の向上と学生支援の強化

- (1) 授業アンケートの分析や公開授業の評価等を踏まえて授業力を強化します。
- (2) 入学後の学修支援の継続的な実施と入学前教育の見直しを行うことにより基礎教育の充実を図ります。
- (3) 教育力向上に向けてFD・SDを組織的に推進します。
- (4) 「主役は学生プロジェクト」を継続して実施します。
- (5) キャリア支援のさらなる充実を図ります。

2. 研究のさらなる推進

- (1) 外部資金の獲得を積極的に推進します。
- (2) 学内研究者間の情報交換と研究者間交流を促進します。

3. 入試制度改革の推進と高大連携方針の確定

- (1) 全学部において入学定員100%確保を目指します。
浜松キャンパス及び大学院の入学定員確保を図るための広報活動をさらに強化します。
- (2) 志願者が増加した学部について、その要因を分析し、安定的な志願者確保対策を策定します。
- (3) 入試制度改革を推進します。
- (4) 附属高校との高大連携について、方針を確定します。

〈常葉大学短期大学部〉

1. 研究活動の推進

- (1) 各教員の担当教科の指導法等にもとづき業績を積み上げます。
- (2) 各科内研究会、研究誌、紀要により研究活動を活性化します。
- (3) 科学研究費等の競争的資金への応募を促進します。

2. 附属高校との連携強化

- (1) 附属高校3校と短期大学部との高大5ヶ年教育の在り方検討会を設置します。
- (2) 常葉高校との高大連携授業（土曜講座）についてより効果的な実施に向けて再検討します。
- (3) 橘高校、菊川高校との具体的な連携を検討します。

3. 静岡瀬名キャンパスの活性化

- (1) 大学造形学部と短大部音楽科による静岡瀬名キャンパス活性化検討会を設置します。
- (2) 静岡瀬名キャンパスらしい企画を実施し、広報に役立てます。
- (3) 音楽科の広報を強化します。

○ 高等学校、中学校

〈常葉大学附属常葉中学校・高等学校〉

1. 【中学・高校】「夢を実現させる学校」一人ひとりを大切にし、自己実現を支援するー

- (1) 知性を高める指導を行います。
- (2) 自立のベースとなる「自律心と協調性」を育てる指導を行います。
- (3) 「豊かな人間性」を育む指導を行います。

2. 【中学・高校】基礎的基本的な知識・技能の習得とその活用力の育成

ー教員の授業力の向上と生徒の自発的参加を促す授業の推進ー

- (1) アクティブラーニングを中心とした授業改善とICT教材活用に取り組めます。
- (2) 教養と一般常識を身に付けさせる取り組みを実施します。

3. 【中学】魅力ある教育活動の推進

ー多様な体験活動を積み重ね、自己理解を深め、自己肯定感を高めるー

- (1) コミュニケーション能力の育成を重視した英語教育を実施します。
- (2) 生きる力の育成と社会性を伸ばす取り組みを充実します。
- (3) 地域貢献・社会貢献のためのボランティア活動を実践します。

〈常葉大学附属橘中学校・高等学校〉

1. 「学力を伸ばす」「人間性を高める」取り組み

- (1) アクティブラーニングの実践を通して授業改善を図り学習の向上につなげます。
- (2) 積極的に高大連携を図り、大学教職員や学生の協力を得て学力の向上を図ります。

2. 進路実績の向上

- (1) 英数科、普通科一貫αコースの学力を高め、進路実績をつくります。
- (2) 普通科総合進学コースの学力向上に取り組みます。

3. 募集活動の強化

- (1) 英数科の特色を前面に打ち出した単独の説明会、吹奏楽・美術の体験会などを実施して受験生の水準を下げることなく、志願者数の増加を図ります。
- (2) 中学・高校とも広報担当主任を置き、ホームページの更新や説明会、学校訪問の窓口を強化します。

〈常葉大学附属菊川中学校・高等学校〉

1. 菊川市との連携協定に基づく『未来学講座』の充実

- (1) 地域貢献・地域社会とのネットワークの構築を目指し、各種団体との連携強化を図るとともに成果の発表にも努めます。

2. 教員の教育力の向上、学習指導・進路指導の充実と生徒の進学実績の向上

- (1) 校内外で実施される研修会へ積極的に参加します。
- (2) 高大接続改革を見据え、アクティブラーニングを推進します。
- (3) 国公立大学、難関私立大学、常葉大学への進学実績の向上を図ります。

3. 部活動のさらなる充実

- (1) 常時全国大会出場を目指す部活動、地域から愛される部活動、両者のさらなる充実を図ります。
- (2) 文化部の活性化を図ります。

○ 小学校、こども園

〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

1. 学校教育目標実現のための重点を明確にした指導

- (1) 「生きる力を互いに高めあう児童」を育成するため、「豊かな心」「確かな学力」「たくましい心身」に重点を置いた指導を実践します。

2. 組織を活かし学校運営を一層機能化、効率化させる

- (1) 職員会議、運営委員会、打合せ等の役割を明確化し、会議の効率を図ります。
- (2) 分掌の長がリーダーシップを発揮するとともに、それぞれ目標を精選し効率化を図ります。

3. 授業力向上のための校内研修のさらなる活性化

- (1) 本校独自の学びのスタイルを構築します。
- (2) 常葉大学教育学部との一層の連携強化を図ります。
- (3) 若手・中堅を育てる授業研究、公立小などの研修参加により研修の充実を図ります。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園〉

1. こども園としての新たな教育・保育の推進

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえた教育課程による教育・保育を実践します。
- (2) 週課・日課・シフト等の再検討により改善を進めます。

2. 家庭や地域のこども園に対する理解を深め、子育て支援の充実

- (1) 多様な保護者に対する説明責任を果たします。
- (2) 園開放等、地域に対する子育て支援を推進します。

3. 教職員の資質向上

- (1) 職員研修計画を作成し、園内外の研修の充実を図ります。

〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園〉

1. 幼保連携型認定こども園としての円滑な運営

- (1) 園児の健康及び安全に配慮した教育及び保育を行います。
- (2) 課題等に対する職員の協働態勢の構築を進めます。
- (3) 職員の健康維持やワークライフバランスに対応します。

2. 幼保連携型認定こども園としての質の高い教育及び保育の向上

- (1) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた指導の充実を図ります。
- (2) 園内外の研修にて教職員の資質の向上を進めます。

3. 大学・短期大学及び両附属こども園、附属学校との連携強化

- (1) 常葉大学、短期大学部、附属中高生への保育実習・体験をはじめ多様な研究協力の場を提供し、研究協力を進めます。
- (2) 両附属こども園教員や園児の計画的な交流・連携を図ります。